

ふれあいの橋	社会福祉法人 こうほうえん
	さかい幸朋苑
	〒684-0063 境港市誠道町2083番地
	電話 (0859) 45-6781
	ホームページ http://www.kohoen.jp
Eメール welfare@kohoen.jp	
	こうほうえんは ISO9001-2015 《品質マネジメントシステムの国際規格》 を認証取得しています

鳥取県立境港総合技術高等学校

国家資格『介護福祉士』取得を目指す



実習生はレクリエーションで玉入れをしながらコミュニケーションをとる＝新さかい特養

さかい幸朋苑では、10月27日から県立境港総合技術高等学校福祉科介護類型の第2学年より、7名の介護実習生を受入れました。期間は11月20日までの17日間です。

県立境港総合技術高等学校では毎年、介護福祉士資格取得のため、キャリア教育充実事業として、入所型の施設での介護実習を実施されています。

介護実習では、現場での実習や職員による『老健における専門職の役割』について受講します。実習生は、入所型の施設におけるご利用者とのふれあいを通して、ご利用者のニーズや介護の機能、施設職員の一般的な役割を理解し、介護に関する適切な知識・技術を習得されます。

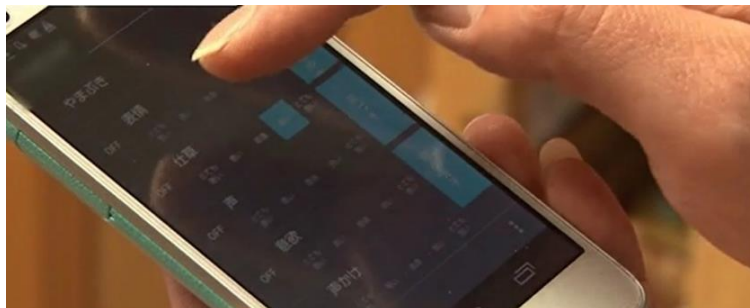
将来の介護福祉士を目指して、たくさんの経験を積んでいただきたいと思います。

「気づき」を可視化し共有する ～ 社会福祉法人こうほうえん ～

●MIMOTE（ミモテ）（気づき＝状態把握システム）とは

2008 年より、経済産業省のプロジェクトとして介護現場における「気づき」の誘発事業を当法人で取り組んで参りました。これは介護現場における現場のノウハウを ICT と融合させるというもので、「MIMOTE（ミモテ）」（ICT を活用した気づきシステム）というスマホのアプリを使用し、介護職の「気づき」をデータ化し、ケアの改善につなげる。

これまで課題であった職員間の介護レベル差を、ベテラン職員の「気づき」を可視化しケアを共有することにより、新人職員でも短期間で熟練に近い気づきを習得できるというもので、それによりご利用者一人ひとりに合ったケアを、根拠に基づいて提供できるようになりました。



※MIMOTE（ミモテ）・・・慶應義塾大学の神成淳司教授により開発された技術に基づき、介護職員が日々の介護の中で利用者に関する「気づき」を入力するアプリである。当法人のよなご幸朋苑を中心に実証施設として、2010 年より約 5 年間にわたり、MOMOTE（ミモテ）を利用し継続的にデータ収集とフィードバックを実施。約 85 万件の介護現場の「気づき」データを蓄積しました。このビッグデータを解析し、新人職員の育成や、個々の職員評価に役立てています。



●MIMOTE（ミモテ）で変わる5つのこと

1. ケアの質が向上
2. ご利用者本位のケア
3. 介護職員のやりがい向上
4. 業務効率の向上
5. ご家族も安心



●MIMOTE（ミモテ）活用の流れ

STEP1

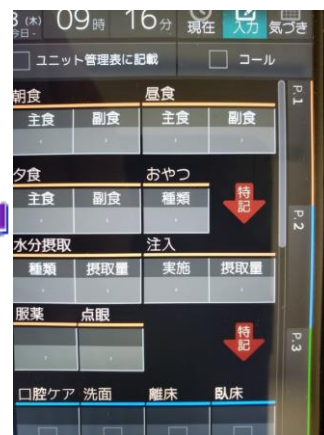
- ・「食事」や「睡眠」など21の「気づき項目」の中から介護職員がケアの過程で気づいたこと（気づき）をスマホに入力。（手入力や音声）
- ・ご利用者の日々の細かな状況変化を、「とても良い」「悪い」など5段階で記録

STEP2

- ・ケアの差を可視化
- ・集まったビッグデータは、分析&グラフ化

STEP3

- ・現場でフィードバック
- ・課題をチーム内で共有し、ケアの底上げを



スマホのアプリ画面



●MIMOTE（ミモテ）の導入に向けて

当法人では、今年度中に MIMOTE（ミモテ）を全エリアの介護事業所に導入し、ご利用者情報の一元化をすすめて参ります。（Wi-Fi 等の通信環境整備も併せて実施）

※全エリアの介護事業所・・・特養・老健から順次導入予定

MIMOTE（ミモテ）導入にあたり、各エリアで介護職員向けに、スマホを活用しての研修を数回に分け実施しています。



「MIMOTE」職員向け研修の様子



鳥取北地域包括支援センター開設

令和2年10月1日より、鳥取市の委託を受け、鳥取北デイサービスセンター内に「鳥取北地域包括支援センター」を開所いたしました。鳥取市立北中学校区・中ノ郷中学校区を中心に、地域の皆様や関係機関との連携を大切にしていきますのでよろしくお願いいたします。



＜お問い合わせ先＞

住所 鳥取県鳥取市秋里1181番地

電話 0857-20-2205 FAX 0857-20-2206



鳥取北地域包括支援センター

米子市尚徳地域包括支援センター移転

令和2年10月1日、なんぷ幸朋苑が米子市から委託を受けて運営している「米子市尚徳地域包括支援センター」が事務所を移転することになりました。皆様が地域で安心して生活できるよう尽力して参ります。

＜お問い合わせ先＞

住所 鳥取県米子市八幡703番地1

電話 0859-26-6588 FAX 0859-36-8876



米子市尚徳地域包括支援センター

みんなで骨粗しょう症予防！

グループホームみなと

グループホームみなとでは、庭先に出て陽に当たり、自然の風に触れる時間を大切にしています。

草木や花の成長を楽しみながらの水やりも日課で、庭先でのティータイムは自然に笑顔が溢れます。また、チーム目標を『転倒・骨折の予防』とし、陽に当たることでビタミンDを増やして骨を強くし、骨粗しょう症の予防に取り組んでいます。

毎日、午前2回と夕飯前の時間に足踏み・踵・つま先の上げ・下げなどの下肢体操も実施しています。最近ではご利用者から、「体操しましょう！」と声をかけられるようになりました。



『ひので通信』にお手紙を添えて！

グループホームひので

グループホームひのででは、ご利用者の生活の様子や行事などをお知らせする『グループホームひので通信』を作成し、ご家族へ写真やお手紙を添えてお送りしています。

面会を制限している中、ご利用者の元気な様子をお届けし、ご家族に少しでも安心していただきたいと思います。



毎月の1・2階合同レク。1階リビングに集合し、職員も一緒になって楽しんでいます。



『ひので通信』です。
上記のような行事や取り組みなど、盛り沢山の情報をお届けいたします。
楽しみにお待ちしております。

スイートポテトで心もほか

新さかいショートステイ



先ごろまで暑かったように思われますが、最近は朝晩が肌寒くなり秋の終わりを感
じさせます。

ショートステイでは秋の味覚、さつまいもを使用したスイートポテトを作りました。
ホッカホッカのスイートポテトはご利用者に大好評！一ロー口大切に味わっておられま
した。



今、できる楽しみを・・・

デイサービスセンター新さかい幸朋苑

新さかいデイサービスでは、例年この時期、花回廊や由志園などへ外出をしていま
したが、今年はコロナ禍のため、施設内で季節に合わせたイベントや食事作りが中心とな
っています。ですが、天気の良い日には、少人数でドライブを兼ねた外出も。公園で、
外の風に当たりながらティータイム♪を楽しんでいます。

今後、今できる楽しみをご和



夕日ヶ丘公園で
カフェ気分

季節の食材を使って・・・天
ぷら、ざるうどん、きのこご
飯を作ります



秋の大運動会！



グループホームあがりみち

グループホームあがりみちでは、季節の行事として、全員参加で秋の大運動会を開催しました。ご利用者が元気よく選手宣誓をされた後、赤組・白組に分かれて、内輪お手玉渡しリレー、魚釣りリレー、投げ輪、満水リレーと熱戦が繰り広げられました。最後に玉入れと続き、全員で玉を数えて終了しました。

最初に緊張されておられた方は、次第に表情が和らぎ会場は笑顔と熱気に包まれました。



選手宣誓



満水リレー



魚釣りリレー



玉入れ

【ご寄附】心温まるご寄附を賜り、厚くお礼申し上げます（令和2年9月1日～30日）

皆様から賜ったご寄附はご厚志に沿い、「地域貢献事業」として使わせていただいております。

秦 啓郎様

匿名希望 3名

寄附金合計額 154,400 円

【ボランティア】貴重な時間をいただき、厚くお礼申し上げます（令和2年10月1日～31日）

〈さかいエリア〉

- ・車椅子清掃
酒井金壽様

〈よなごエリア〉

- ・草取り
山本一夫様ご夫妻

〈なんぶエリア〉

- ・俳句
由木稔様
- ・読み語り、サポーター
秋鹿芙美子様
- ・デイサービスセンターいしい支援
藤山朝子様、須田良子様、
石田喜和子様、尾原稔枝様



- ・共生ホームなるみ支援
勝部尚子様、仲田みどり様、
乗田千恵様、斎木ルミコ様、
石田喜和子様、竹内順子様、
須田良子様、足羽恵美子様、
梅木恭美様、佐藤陽子様、
尾原稔枝様

～日常の暮らしの中で～

デイハウスあがりみちでは、小規模多機能型居宅介護事業所として、『住み慣れた地域でいつまでも暮らせる支援』を念頭に、日々の取り組みを行っています。その一つとして、自宅での生活を長く続けていただく為に、出来ることはご自分でしていただくようにしています。

日々の暮らしの中での様々な動作はご利用者にとって機能訓練にもなります。また、「まだまだ出来ることがある」という自信にもつながり、集団の中での役割を持つことが喜びとなり、暮らしの活力になると考えています。



【昼食後の片付け、食器拭き】

ご利用者 15 名分の食器となるとかなりの枚数ですが、「もうないかいな？」と催促されることもあります。

作業を遠くで見ているご利用者から「私も手伝おうか？」と協力的な言葉も。食器に手が届かない方に渡される姿も見られ、協力し合いながら作業が進みます。



【おやつ作りの下準備】

この日は、いただき物の秋の味覚、ゆで栗の皮むきをしていただきました。

「昔はよくやってたんだよ」と、慣れた手つきで皮を剥がれました。この後みんなで美味しく食しました。



【レクリエーション用品作り】

脳トレの教材作りをお手伝いしていただきました。

『英単語クイズ』のボード作りの際、英語が得意なご利用者に、カードに記載された英単語の内容を確認していただきました。

みなと特養では、利用者の安全と職員の腰痛予防を考え、様々な福祉用具を活用してノーリフティングに取り組んでいます。今回は今年の 1 月に導入された浴室のリフトについて紹介いたします。

【当時の状況と課題】

みなと特養の 2 階には、椅子に座ったまま入れる特殊浴槽と普通浴槽があります。しかし、ご利用者の平均介護度が“4.6”の特養では特殊浴槽を使われる方が多く、順番がなかなか回って来ないため、長時間待つていただくこともありました。

【対策】

- ・普通浴槽にリフトを設置する。

【効果】

- ・座って入浴される方や寝た状態で入浴される方を、お待たせすることなくスムーズに入浴できた。
- ・浴室内で、ご利用者を抱えて移乗していた職員の腰痛への負担軽減と、打ち身などによる事故防止にも繋がった。

【今後の展開】

- ・脱衣所にもリフトの導入を検討中。



こうほうえんは、2016 年に『ノーリフティング』を宣言して、今年 4 月で 5 年目を迎えました。

『抱え上げない介護=ノーリフト®』とは、1998 年にオーストラリア看護連盟 ANF ビクトリア支部が「押さない・引かない・持ち上げない・ねじらない・運ばない」を合言葉にスタートさせた No Lifting Policy (ノーリフティングポリシー) のことです。

日本でも 2013 年に厚生労働省が、職場における腰痛予防対策指針が改訂され、福祉・医療分野等における介護・看護作業において『全介助の必要な対象者には、リフト等を積極的に使用することとし、原則として人力による人の抱え上げは行わないこと』などが明示されました。

ノーリフティングケアは、福祉用具の導入などにより職場環境や働き方が変わることと、介護する側の腰痛など身体への負担軽減と、介護を受ける方への自立支援を促す安全で安楽なケアを考えた介助方法です。



「第 20 回こうほうえん研究発表会」会場で宣言する= 2016 年 3 月